

第2回温州みかん「石地」主幹形仕立て栽培勉強会開催

【平成30年10月17日掲載】

9月20日に呉市下蒲刈町で、広島県原産の温州みかん「石地」の主幹形仕立て栽培に取り組む同町と蒲刈町の新規就農者3名を対象に、今年2回目の勉強会を開催しました。この勉強会は、7月に予定していましたが、豪雨災害により園地へつながる多くの道路が被害を受けたことから、9月の開催となりました。

温州みかんの主幹形仕立て栽培の特徴は、樹形が半径50～60cmの円柱形で、骨格となる枝（主幹と側枝）の配置が単純なので収穫作業の能率が高く、定植後早期から高品質果実の収量が可能なことです。

当所の担当者から、9月下旬までに果実1個に対して葉が30枚程度となるように余分な果実を落とす等の注意点について説明を行いました。

参加者の中には、園地の一部が土石流で埋まる被害を受け、災害対応を優先せざるを得ない状況となった方もいます。しかし、そのような状況となっても、技術向上への意欲は衰えることはなく、「ぜひ勉強会を開催して欲しい。」との強い要望を受け、対応したものです。

勉強会を開催した園地は、定植3年目で今年が初収穫となり、きれいに揃った果実が11月末から収穫される予定です。



熱心に説明を聞くかんきつ栽培の担い手



「石地」主幹形仕立ての着果状況
(定植3年目)